|  |  |
| --- | --- |
| 分野名 | 総合分野 |
| 目　標 | １　商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。２　ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する能力を養う。３　ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

【重要】最後の２単元については比較的難易度の高い上級コース（有価証券報告書を用いた企業分析）と標準コース（ビジネスアイデアの創出）に分かれる。

　　　　学校や学科の実情によって上級コースもしくは標準コースを選択する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【ＳＤＧｓとSociety5.0の理解】・講義（１時間）ワークシートの基礎学習とYouTubeを用いてＳＤＧｓとSociety5.0を理解させるための講義を行う。・意見共有（１時間）　講義後、ケース教材を配付し、事前学習させる。ケースメソッドでの授業ではグループ意見共有実施後、全体の意見共有を行う。 | ・講義を実施後、ケース教材のアサインメントにて持続可能な世界を創り上げるための方策について考察する。・会計的側面からＥＳＧ投資については必ず取り扱う。・職業人に求められる倫理観とビジネスによる課題解決の必要性について理解している。・他者の意見から多面的・多角的にＳＤＧｓの目標を達成させる必要性を理解している。・ＳＤＧｓを自らの問題として捉え、解決しようとする態度を身に付けている。 |
| ２時間 | 【人口のピラミッドからビジネスチャンスについて考えよう】・ケース教材（１時間）　最初の１時間はケース教材１～３を順に行う。ケース教材の４、５は次回の授業までに事前学習させる。・ケース教材（１時間）　ケース教材４、５を順に進める。 | ・タブレット端末を活用し、人口のピラミッドを実際に操作しながら授業を進める。・人口のピラミッドを分析し、その背後にある要因や影響を理解することができる。・人口ピラミッドを基に、将来の人口動態や社会問題（高齢化社会、労働力不足など）を予測し、それに基づいてビジネスチャンスを見いだすことができる。 |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 【株式と経済の関連性について理解しよう】・講義（１時間）　プレゼン資料とワークシートを用いた講義を実施する。日経平均株価と株価の変動要因に関する課題を指示する。・グループワーク（１時間）　グループにて日経平均株価の変動要因について関係性を見つけ発表を行う。 | ・ワークシートに合わせた台詞付きのプレゼン資料を用意しているので、それを活用して講義を行う。・企業業績と株価の関係性について考察する。・１時間講義後の学習課題は夏休み課題や１か月程時間を空けることが好ましい。・日経平均株価が大きく変動した時の理由を考察する。・株価は日本経済だけではなく世界経済や金利、政治、災害、地政学など複雑な要因が絡まって形成されていることを理解している。 |
| ２時間 | 【未来のイノベーション】・グループワーク（１時間）　グループにてテーマを決め、未来のイノベーションについて考察する。・研究発表（１時間）　未来のイノベーションに関する研究発表を行う。 | ・プレゼンが「課題の提示→ビジネスがどう解決させるのか→成長性、未来の姿」というように論理的に説明する力を養う。・イノベーションがどれくらいの経済効果を及ぼすのか理解している。・現代の課題を解決させるために、数多くのビジネスが誕生していることを理解している。・聴衆が理解しやすいプレゼンの作成方法を習得している。 |
| ２時間 | 【新旧のビジネスリーダーが目指す企業の在り方】・講義、個人ワーク（１時間）　渋沢栄一と豊田章男会長に関する理解を図るためにYouTubeを視聴したり、インターネットで調べたりする。・ケースメソッド（１時間）　ケース教材をアサインメントの順に進める。 | ・ケース教材に渋沢栄一と豊田章男会長について書かれているが、理解を促すためにYouTubeを用いる。特に渋沢栄一については論語と算盤についても学習する。全体でYouTubeを視聴する場合は、２時間ほど時間を確保するとよい。・ケースメソッドではアサインメント３・４・５を重点的に意見共有する。・新旧のリーダーの共通点を知り、企業のあるべき姿、あるべき経営について考察し、企業の進む道を理解する。・時代が変化しても不変の根本的なものを理解する。 |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 上級コース【有価証券報告書を用いた企業分析】・講義及びグループワーク（１時間）　EDINETを活用し、有価証券報告書を閲覧する（ネットワークによってはEDINETでの閲覧が難しい場合もあるので、その場合は企業ＨＰのＩＲ情報から有価証券報告書を閲覧する）。　有価証券報告書の見方について説明する。その後、ワークシートを用いてグループワークを行う。・ジグソー法でのグループワーク（１時間）　ジグソー法を用いて、前時に各グループで発見した有価証券報告書を用いた企業の分析方法について別グループで共有する。・ジグソー法で意見共有した内容を精査し、企業分析するためにどの分析方法を活用するのかを協議する。 | ・EDINETから有価証券報告書を閲覧する方法や、有価証券報告書の見方については教師が説明をする。・今回の学習で最終決定した分析方法は、次のＰＢＬの単元である「ビジネスプレゼンテーション」の企業分析で使う。・EDINETを活用して、有価証券報告書を閲覧することができる。・有価証券報告書を活用して、さまざまな企業分析の方法を発見することができる。・数ある分析方法の中から、企業を分析するための重要項目を考察し、精査することができる。 |
| ４時間 | 上級コース【ビジネスプレゼンテーション】・講義（１時間）　「プレゼンテーションの基礎」においてYouTube動画を活用して、プレゼンテーションの基礎について学習する。・講義とグループワーク（１時間）　「地元企業をＰＲし、自社の株式を購入してもらおう」というテーマで、既習の知識を総動員して地元企業を分析し、社員になったつもりで自社のＰＲをする。また、有価証券報告書を効果的に活用する。・プレゼンテーション準備（１時間）・プレゼンテーション実践（１時間） | ・プレゼンテーションの基礎を理解させるためにYouTubeを用いて講義を行う。・地域の企業が現存するさまざまな課題を解決させるために企業活動を行っていることを理解している。・ＳＤＧｓなどの企業倫理とビジネスという視点から企業を分析し、企業の社会的責任の必要性について理解している。・自身の社会人としての在り方について考察し、進路実現に向けた行動をとることができる。・論理的に発表することができる。・メンバー全員が自身の役割を理解し、協働して取り組むことができる。・発表会を通じて、新たな課題を発見し、それを次の学びに生かそうとしている。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間数 | 学習活動 | 指導の留意点及び到達目標 |
| ２時間 | 標準コース【ビジネスアイデアの創出】・講義とアサインメントの作成（１時間）ケース教材に沿って講義を行う。生徒は講義後、「アサインメンその１　個人学習」を行う。全て終わらない場合は家庭学習とする。・グループ内及び全体意見共有（１時間）＜グループ内意見共有＞「アサインメントその２　グループ学習」を行う。＜全体意見共有＞グループ学習での３と４について全体意見共有を行う。＜振り返りの共有＞授業の最後に振り返りを書かせるとともに、スプレッドシートなどを活用して振り返りの共有を行う。 | ・課題発掘に関する視点を理解する。・先人の知恵からアイデアを構築する方法を理解し、実践する。・現存する社会問題や課題、自己の問題を発見する。・「アサインメントその２　グループ学習」では実現可能性関係なく自由な発想で考案する。付箋や模造紙等を使ってもよいが準備も大変なので、Teamsの共同編集機能や「ふきだしくん」を使うとＩＣＴ機器を活用した授業となる。・生徒には、今回出たアイデアを基に次の単元のビジネスプレゼンテーションで発表を行うことを告げ、どのアイデアを発表したいかを考えるよう指示をする。・現存する社会課題や自己の問題をビジネスとして解決しようとする。・未来の姿を見据えた事業を考察できる。 |
| ４時間 | 標準コース 【ビジネスプレゼンテーション】・講義（１時間）　「プレゼンテーションの基礎」においてYouTube動画を活用して、プレゼンテーションの基礎について学習する。・グループワーク（１時間）　「ビジネスアイデアの出資者を募ろう」というテーマで、アイデアの中から１つのアイデアに最終決定する。・プレゼンテーション準備（１時間）・プレゼンテーション実践（１時間） | ・プレゼンテーションの基礎を理解させるためにYouTubeを用いて講義を行う。・グループワーク１では前回の単元のプリントを持参させる。・ウォルトディズニーの３つの部屋の「批判家の部屋」を用いてアイデアのリスクや問題点を考えさせる。難しそうであれば教員がフォローに入る。・プレゼンの基本構成（ＳＤＳ法やＰＲＥＰ法など）については教員が簡単に説明するとよい。・説得力のあるプレゼン技法を知る。・メンバー全員が自身の役割を理解し、協働して取り組むことができる。・発表会を通じて、新たな課題を発見し、それを次の学びに生かそうとしている。 |